

福岡教育大学 障害学生支援センター  
平成 30 年度

活動報告書

# 福岡教育大学 障害学生支援センター

## 平成 30 年度活動報告書

### 目 次

1. 福岡教育大学障害学生支援センターについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 平成 30 年度 障害学生支援センター活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
3. 理解・啓発活動、開催セミナーなど・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
4. 障害学生支援に関する授業担当教員アンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・15
5. 障害学生支援センター 平成 30 年度年間スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・22

# 1. 福岡教育大学障害学生支援センターについて

## 1-1. 支援体制

福岡教育大学での障害学生支援に関する組織は、平成21年11月に「障害学生支援室」として開設され、平成27年8月から「障害学生支援センター」として発展・拡充し、障害学生支援センターが中心となって、健康科学センター、大学教員、各担当部署、附属学校などと連携を取りながら障害のある学生の支援を行っている。

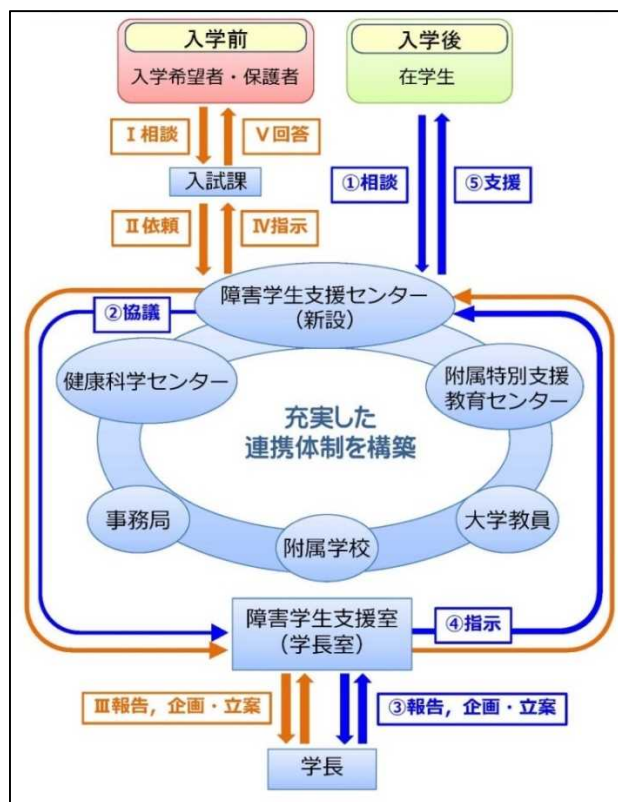


図 1-1 障害学生支援のための連携体制

### 【障害学生支援センター構成員】

- センター長 1名
- 副センター長 1名
- 専任教員 1名
- 障害学生支援コーディネーター 2名
- 事務補佐員 1名

## 1-2. 支援学生数

平成30年度に障害学生支援センターの有償ボランティアとして登録した学生は53名であった。平成29年度（85名）と比べると32名減少している。

平成30年度に登録した学生の学年、所属は表1-1の通りである。

表1-1 有償ボランティア学生の学年・所属

学年			所属			
大学院	1年	1	大学院	教育科学専攻	教科教育創造	1
特別専攻科		4	特別専攻科			4
学部	4年	8	学部（4年生）	中等	数学	1
	3年	16			家庭	1
	2年	16			技術	1
	1年	8			特別支援	3
					共生社会	1
					福祉社会	1
					芸術	1
			学部（3年以下）	初等		15
					幼児教育	2
				中等	国語	3
					数学	2
					理科	2
					英語	1
					音楽	2
				特別支援	初等	8
					中等	5

合計 53名

(平成31年3月31日現在)

※表内の数値は人数

### 1-3. 障害学生在籍数

障害学生支援センターでは、平成31年3月末現在、8名（視覚障害のある学生2名、聴覚障害のある学生2名、病弱・虚弱の学生1名、発達障害のある学生1名、精神障害のある学生2名）の障害学生を支援している。障害種ごとの在籍数は表1-2の通りである。

表 1-2 障害学生在籍数

	1年	2年	3年	4年	合計
視覚障害	1			1	2
聴覚障害				2	2
病弱・虚弱		1			1
発達障害		1			1
精神障害			2		2
合計	1	2	2	3	8名

※表内の数値は人数

### 1-4. 障害学生支援センターの利用状況

平成30年度の障害学生支援センターへの来室者数は年間で合計1918名であった（図1-2）。来室目的はその他の来室が一番多く、内容として活動報告、書類提出やテイク予定の確認、学生同士の交流など行われた。パソコンテイク関係での来室、各種相談や手話活動、障害学生支援センターで管理しているパソコンの更新等の作業がそれに続いた。

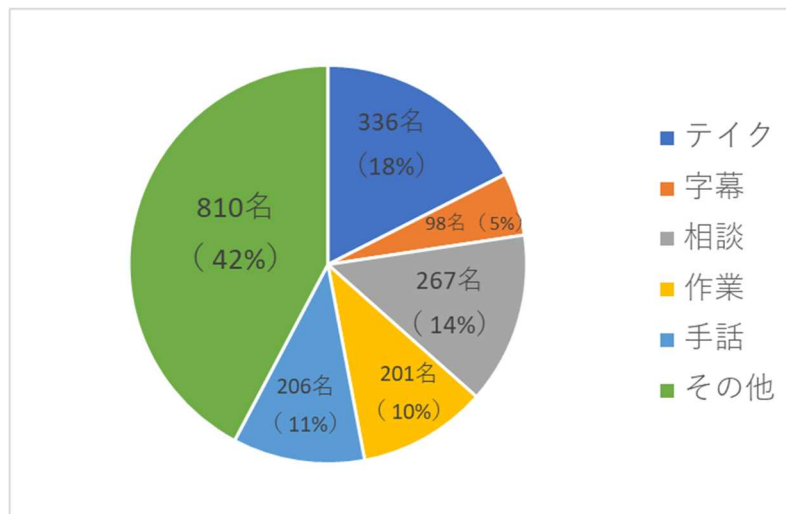


図 1-2 障害学生支援センターへの来室者数とその内訳

## 2. 平成 30 年度 障害学生支援センター活動報告

### 2-1. 視覚障害学生支援

#### ①授業等の配付資料の電子データでの提供、拡大資料の作成

視覚障害学生が授業・教員採用試験対策講座等で使用する配付資料を、授業担当教員から事前に電子データにより提供を受けた。学生は電子データを自身のタブレット端末に取り込み、適宜自分の見やすいサイズに拡大して資料を閲覧する形で受講してもらった。また、電子データでの提供を受けていない資料や直接書き込みをしたいと申し出があった資料については、障害学生支援センターで拡大資料を作成し、学生に提供した。

#### ②支援機器の貸し出し

学生の希望に合わせた支援機器を貸し出した。障害学生支援センターで貸し出しを行っている支援機器は、表 2-1 の通りである。

表 2-1 支援機器（視覚障害学生支援）

---

拡大読書器（据え置き・携帯型）
単眼鏡、各種ルーペ
各種スキャナ
立体コピー作成機
点字PDA
各種ソフトウェア

---

#### ③授業担当教員に対する授業の際の配慮願いの提出

視覚障害学生が受講する授業の担当教員に対して、主な配慮点をまとめた文書を送付した。具体的には、講義で使用する資料の事前提供、単眼鏡や iPad 等の支援機器の持ち込みの許可、試験時の時間延長の依頼を記載した。

## 2-2. 聴覚障害学生支援

### ①授業での情報保障（パソコンテイク、ノートテイク、手話通訳）

利用学生が希望するすべての授業にパソコンテイク（1コマにつき3名）を配置した。利用学生にはタブレット型パソコンを貸し出し、無線LANを使用して教室内の離れた場所においても情報を得ることができる方法を採用している。無線LANで接続することで、自分の受講しやすい場所で受講をしたいという学生の要望に応えた支援を行っている。

平成30年度における聴覚障害学生のパソコンテイク配置授業数は、表2-2の通りである。

表 2-2 パソコンテイク配置授業数

	前期	後期
利用学生A	4コマ/週	2コマ/週
利用学生B	4コマ/週	4コマ/週
その他	入学式 新年度オリエンテーション 教員採用試験のための特別講座 集中講義 教育実習事前指導・事後指導 卒業式	

### ②支援機器の貸し出し

学生の用途に合わせた支援機器の貸し出しを行った。代表的なものとして、パソコンテイクで使用するためのタブレット型パソコンを1人に1台ずつ（計2台）を年間通して貸し出した。また、音声認識アプリの入ったタブレット端末を聴覚障害学生の指導教員に貸し出し、ディスカッションが中心となるゼミの際に使用してもらった。

### ③視聴覚教材への字幕挿入

聴覚障害学生が受講する授業で使用する視聴覚教材に字幕を挿入しており、作成した視聴覚教材は図書館で管理している。

平成30年度に字幕挿入した視聴覚教材は合計12本で、330分（5時間30分）であった（図2-1、図2-2）。

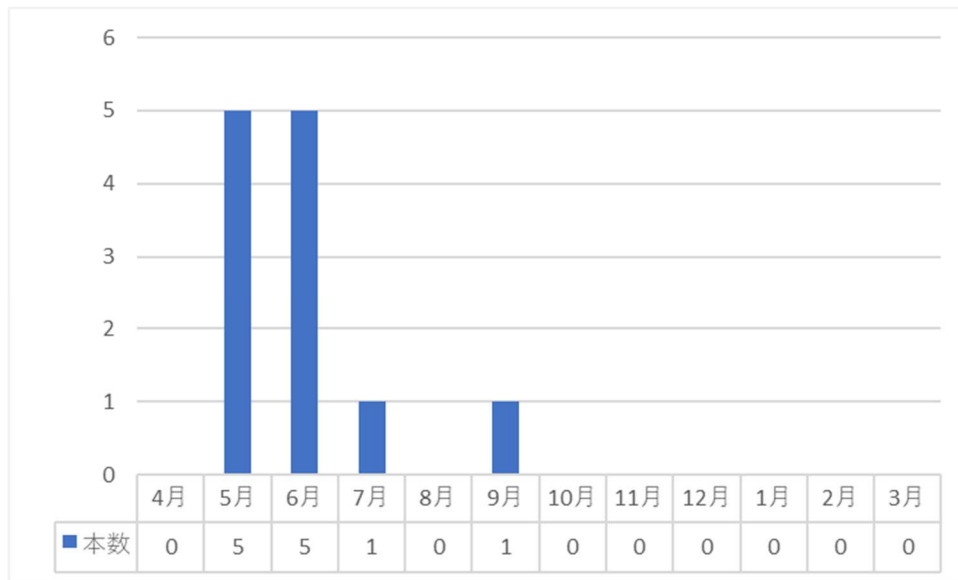


図 2-1 平成 30 年度 字幕挿入依頼本数

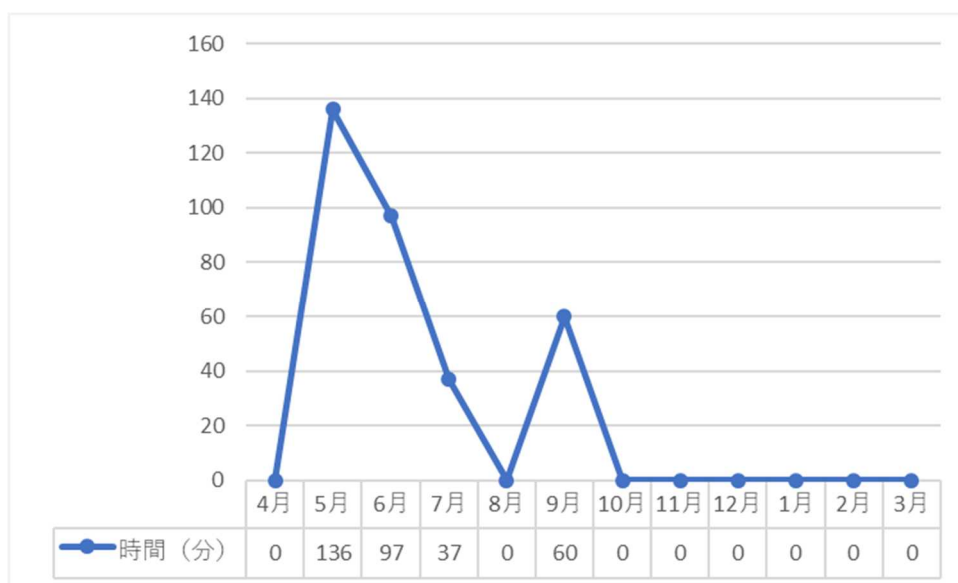


図 2-2 平成 30 年度 字幕挿入時間

#### ④授業担当教員に対する授業の際の配慮願いの提出

聴覚障害学生が受講する授業の担当教員に対して、主な配慮点をまとめた文書を送付した。具体的には、講義中の FM マイクの装着、視聴覚教材を使用する際の事前申請、PC テイカーの配置およびテイカーへの資料提供の依頼を記載した。



#### ⑤教育実習での配慮

附属中学校で教育実習を行う学生がいたため、教育実習における配慮願いを作成し、実習校に送付した。また、実習期間中にはPCテイカーを各日3名派遣し、協議会や指導案指導などの際に情報保障を行った。障害学生支援センターの職員が実習開始前や期間中に赴き、実習担当教員と情報共有や助言を行い、支援計画の見直しを行った。

#### ⑥行事や式典での情報保障

入学式や卒業式において、障害のある学生だけでなく、式典に参加される保護者等のためにパソコンテイカー（支援学生）を配置し、スクリーンに文字情報として投影している。また、福岡県手話の会連合会に手話通訳者派遣の依頼をし、パソコンテイク・手話通訳により、誰もが式典の内容を理解できるような情報保障を行った。

### 2-3. 病弱・虚弱学生支援

#### ①授業担当教員に対する授業の際の配慮願いの提出

当該学生の症状・ニーズに合わせた配慮事項をまとめた配慮願いを提出した。

### 2-4. 発達障害学生支援

#### ①授業担当教員に対する授業の際の配慮願いの提出

当該学生が受講する授業の担当教員に対して、主な配慮点をまとめた文書を送付した。

#### ②時間管理・持ち物管理スキル指導

当該学生のニーズに合わせて定期的に面談を行い、スケジュールの確認や持ち物の管理スキルの指導を行った。

### 2-5. 精神障害学生支援

#### ①授業担当教員に対する授業の際の配慮願いの提出

当該学生が受講する授業の担当教員に対して、主な配慮点をまとめた文書を送付した。

## 2-6. 支援登録学生対象入門講座

障害学生支援センターでは、支援スタッフとした登録した学生に対して、入門講座を行っている。入門講座は1講座あたり1時間半程度で講師は支援スタッフとして登録して1～2年程度活動している学生が担当している。平成30年度のノート・パソコンテイク入門講座、視聴覚教材字幕挿入入門講座の実施回数および人数は以下の通りである。

### ○ノート・パソコンテイク入門講座 12回

1回の講座に1～3名程度の学生が参加し、合計16名の参加があった。

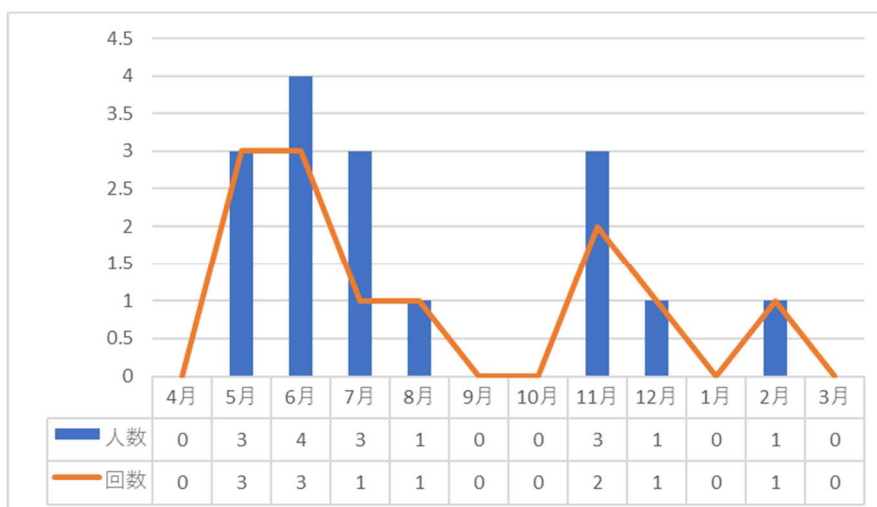


図 2-3 ノート・パソコンテイク入門講座実施回数・人数

### ○視聴覚教材字幕挿入入門講座 9回

1回の講座に1～3名程度の学生が参加し、合計11名の参加があった。

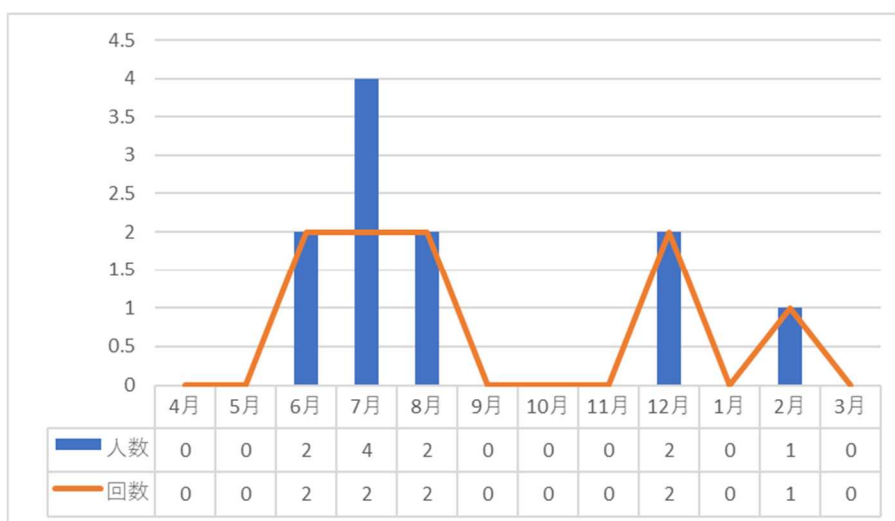


図 2-4 視聴覚教材字幕挿入・入門講座実施回数・人数

## 2-7. 支援活動反省会

前・後期終了後に2回、支援活動の反省会を開催し、その学期に行われた支援活動に関する反省や支援をする際に難しかったこと、その改善点などについて意見交換が行われた。反省会では支援スタッフ同士でのアドバイスがなされる一方で、実際に支援を受けている障害学生も参加しているため、「自分だったらこうして欲しい」など、障害学生自身の経験やとらえ方を話してもらえる場面もあり、次年度以降の支援活動の改善につながっていくものと考えられる。

また、パソコンタイクの技術向上を目的としたタイピングチェックを年に2回行っている。パソコンタイカーとして登録した当初とタイピング力を比較することで、技能が向上していることを実感し、支援活動への意欲が向上する学生が多い。また、学生同士の競争意識が高まることによって、よりタイピング技能が向上すると考えられる。



写真 2-1 反省会の様子

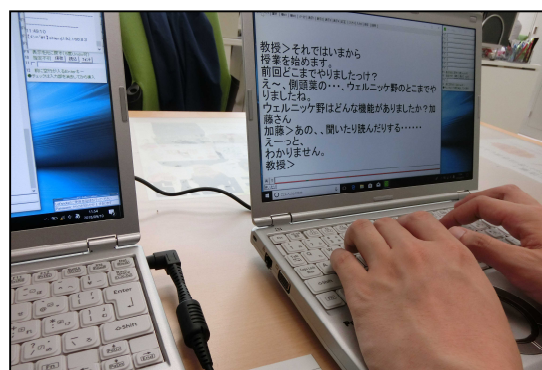


写真 2-2 スキルアップ講座の様子

## 2-8. バリアフリーマップの作成

平成 26 年度より支援スタッフによる大学内のバリアフリー状況調査およびバリアフリーマップの作成を行っている。平成 30 年度には、これまでに調査が十分に行われてこなかった箇所に加え、改修工事によって新たに必要になった箇所の調査やマップの改訂作業を行った。調査を元に大学内のバリアフリー化が行われており、平成 30 年度には不足部分の点字ブロックの新設などを行った。

また、作成されたバリアフリーマップは入学式の際に新入生全員に配布され、また障害学生支援センターのホームページ上に随時更新している。



写真 2-3 学内調査の様子

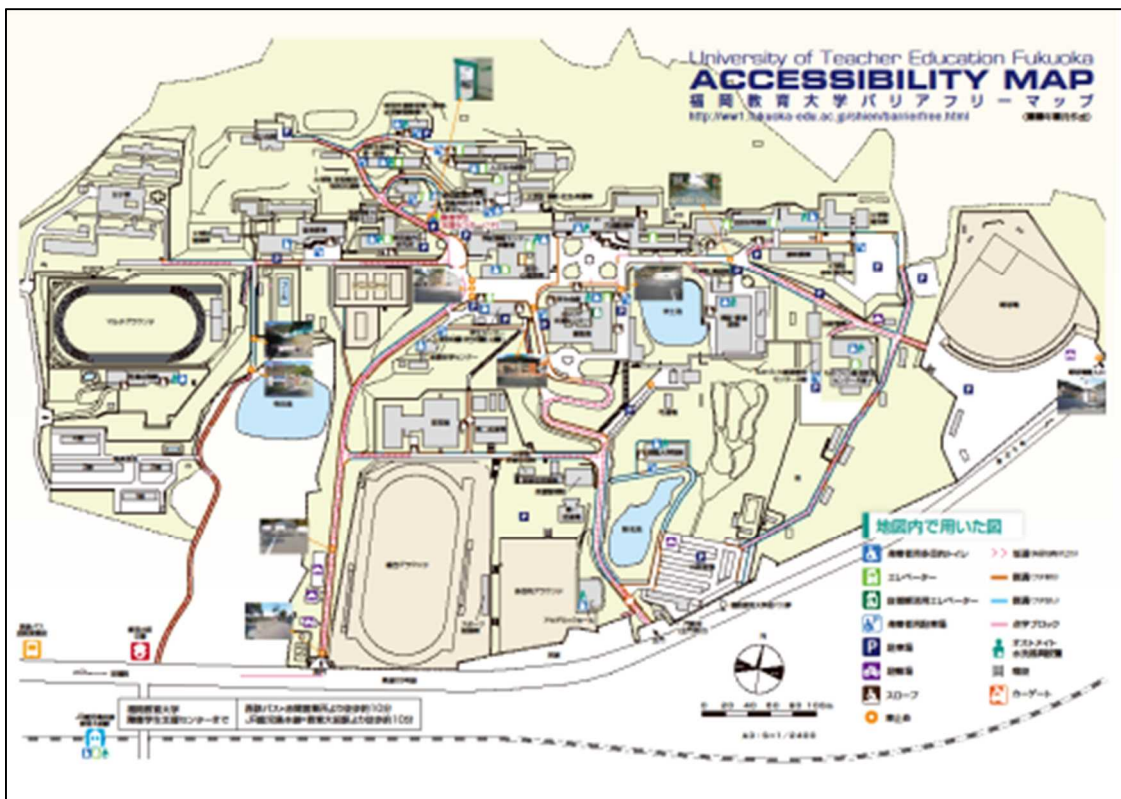


図 2-5 学内バリアフリーマップ

## 2-9. しゅわ弁

学生が企画する手話の勉強会（しゅわ弁）を毎週木曜日のお昼休みに開催した。講師となる学生がプログラムを考え、今年度は、回ごとにテーマを決め、テーマに沿った手話表現を使ってコミュニケーションをとるなどの活動を行った。毎週8～10名程度の参加者があり、熱心に手話でコミュニケーションをとろうとする姿が見られた。



写真 2-5 しゅわ弁の様子

### 3. 啓発活動、開催セミナーなど

#### 3-1. 障害学生修学支援ネットワーク拠点校としての活動

福岡教育大学は独立行政法人日本学生支援機構障害学生支援ネットワーク九州・沖縄地区の拠点校として、障害のある学生に関する相談・見学の申し込みを受け付け、情報提供等を行った。

他大学等からの相談受付 15件（大学11件、特別支援学校1件、その他3件）

見学 5件（大学3件、企業1件、医療機関1件）

#### 3-2. 第40回国際学校心理学会（ISPA）

平成30年7月25日（水）～28日（土）

東京成徳大学 東京キャンパス

第40回国際学校心理学会において、本センターの熊谷亮助教および特別支援教育講座の相澤宏充教授が「Support Needs of Students with Disabilities during Teaching Practice for Student Teachers」と題したポスター発表を行い、欧米の研究者と障害学生支援の現状について討論をした。

#### 3-3. 第67回九州地区大学教育研究協議会

平成30年9月14日（金）・15日（土）

長崎国際大学

九州地区大学教育研究会主催の第67回九州地区大学教育研究協議会において、本センターの永井友幸障害学生支援コーディネーターが「福岡教育大学における支援スタッフを中心とした支援システム」と題した口頭発表を行った。

#### 3-4. 平成30年度福岡教育大学第2回人権教育推進研修会

平成30年10月4日（木）

福岡教育大学

本学の教職員および学生を対象に人権教育推進研修会が開催され、本センターの熊谷亮助教が「大学に求められる障害学生への合理的配慮—障害学生支援センターの取り組み—」と題して、日本の大学における障害学生支援の現状や障害別の具体的な配慮内容について講演を行い、約200名の教職員の参加があった。



### 3-5. 第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

平成30年10月28日(日)

早稲田大学 早稲田キャンパス

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)主催の第14回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが開催された。聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2018で、本センターの「学生による支援活動研究プロジェクト」の一環として学生スタッフが教育実習支援に関する実践事例を発表し、奨励賞を受賞した。



写真3-1 ポスター発表の様子

### 3-6. 日本発達障害支援システム学会第17回研究大会

平成30年12月16日(日)

目白大学 新宿キャンパス

日本発達障害支援システム学会第17回研究大会において、本センターの熊谷亮助教および特別支援教育講座の相澤宏充教授が「障害学生の教育実習におけるサポートニーズの検討」と題して、聴覚障害のある教育実習生をウエル実習校に対する大学の支援についてポスター発表を行った。

### 3-7. 九州地区国立大学法人障害者支援に関する大学間連携プログラム

平成 31 年 2 月 19 日（火）

福岡教育大学

本センターが主催となり、九州地区国立大学法人障害者支援に関する大学間連携プログラム「平成 30 年度パソコンノートテイク基礎研修」を開催し、九州地区の国立大学の学生・教職員など約 40 名が参加した。

講義 1 では、長崎大学障がい学生支援室のピーター・バーニック先生を講師としてお招きし、「大学における障がい学生支援の概要」と題して、障害学生支援の背景にある法令や諸外国も含めた障害学生支援の現状、実際の支援例など、幅広くご講義いただいた。

講義 2 では、本センターの永井友幸障害学生支援コーディネーターより情報保障の概要に関する説明があり、その後パソコンテイクの演習を行った。

最後に、参加した 7 大学から活動報告があり、各大学の学生や教職員より特色のある障害学生支援に関する取り組みが紹介され、それぞれの活動について活発な意見交換が交わされた。



写真 3-2 講演の様子



## 4. 障害学生支援に関する授業担当教員アンケート

### 4-1. 実施の目的

今後の障害学生支援の充実や方向性を検討するため、障害のある学生が受講する授業の担当教員へアンケート調査を実施し、障害学生支援センターで提供している合理的配慮や取り組みの有効性について検討した。

### 4-2. 方法

平成30年度前期・後期において本学で開講された授業のうち、障害学生が受講した授業の担当教員104名（常勤71名、非常勤33名）を対象に、平成31年1～2月にかけて、郵送法によるアンケート調査を実施した。そのうち、50名から回答を得た（回収率48.1%）。なお、回答者は常勤教員27名（38.0%）、非常勤講師23名（69.7%）であった。

### 4-3. 結果および概要

各質問項目の結果は以下の通りである。

問① 担当した授業（障害のある学生が受講した授業）について

担当した授業における障害のある学生の障害種（複数回答）を尋ねたところ、視覚障害44件（38.9%）、聴覚障害21件（18.6%）、肢体不自由1件（0.9%）、病弱・身体虚弱5件（4.4%）、発達障害28件（24.8%）、精神障害8件（7.1%）、不明6件（5.3%）であった。（図4-1）。

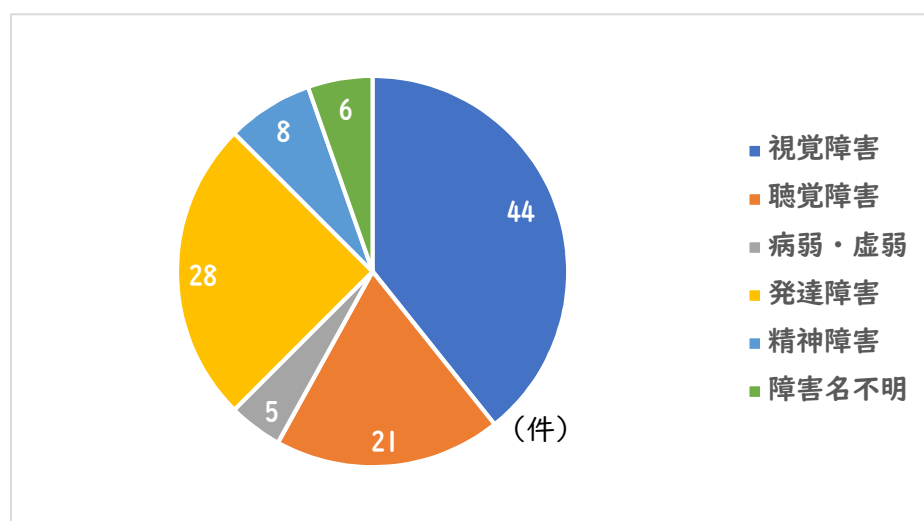


図 4-1 支援件数

授業を担当している障害学生へ行った配慮について、選択するように求めた結果を図 4-2～図 4-5 に示す。

視覚障害学生への配慮として「教材の拡大（17件）」が最も多く、「時間延長・別室受験（5件）」、「その他（5件）」が続いた（図 4-2）。

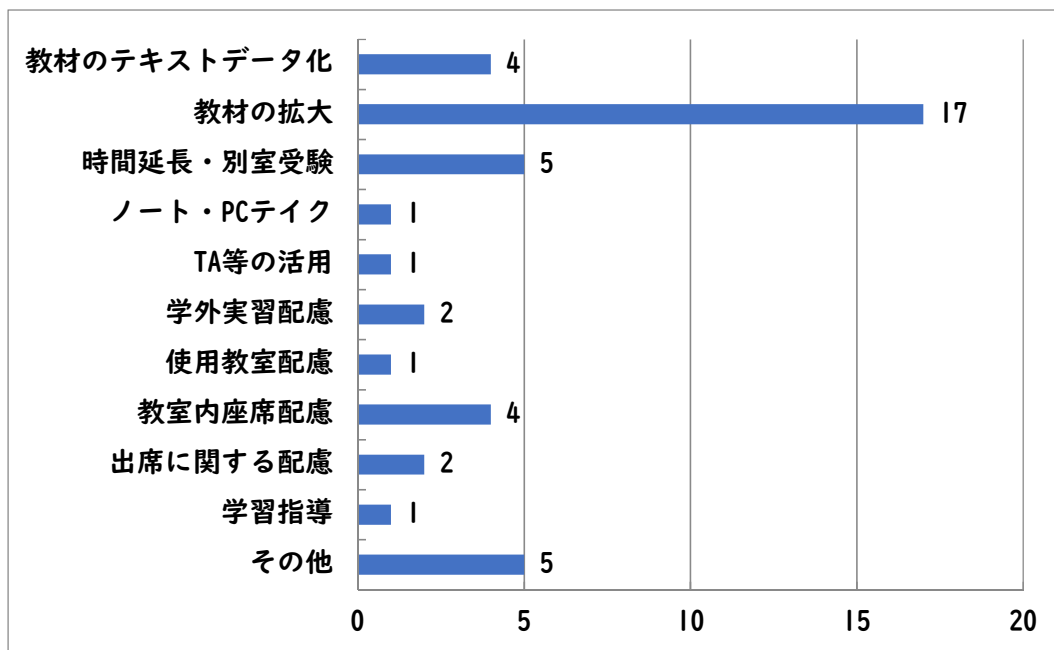


図 4-2 視覚障害学生に行った配慮

聴覚障害学生への配慮では、「ノート・PCテイク（7件）」が最も多く、続いて「FM補聴器/マイク使用（4件）」であった（図 4-3）。

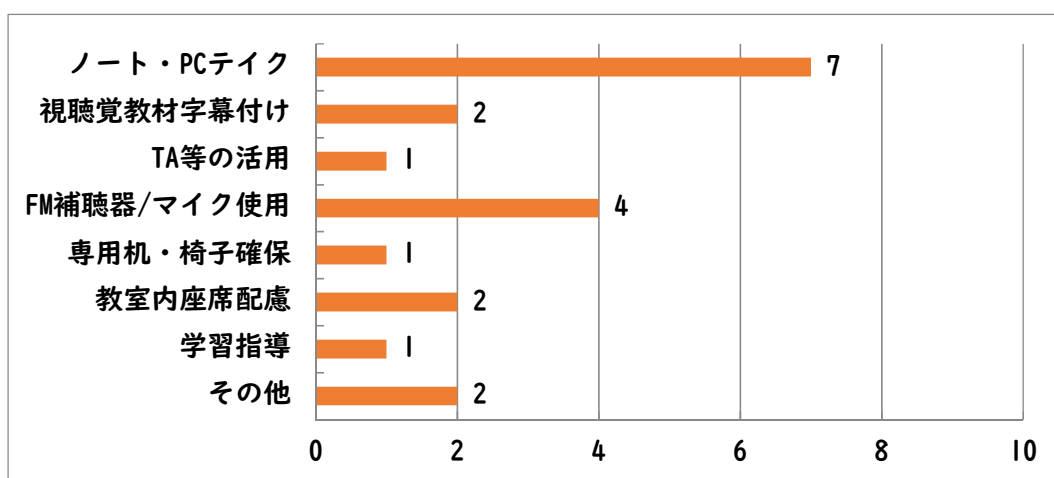


図 4-3 聴覚障害学生に行った配慮

発達障害学生への配慮として「教材の拡大(13件)」が最も多く、次いで「その他(4件)」であった(図4-4)。

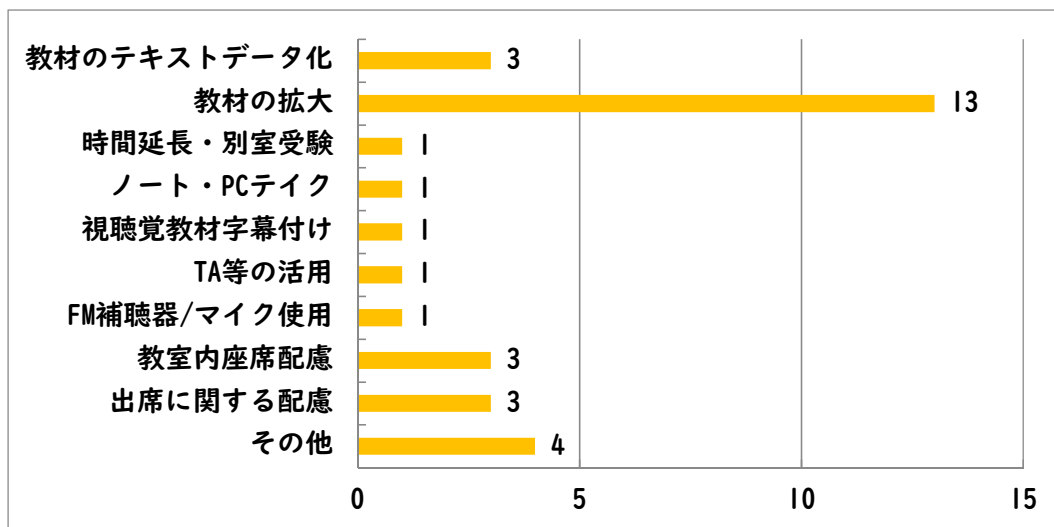


図4-4 発達障害学生に行った配慮

病弱・身体虚弱、精神障害および障害名が分からないと回答した学生に対する配慮を図4-5に示す。

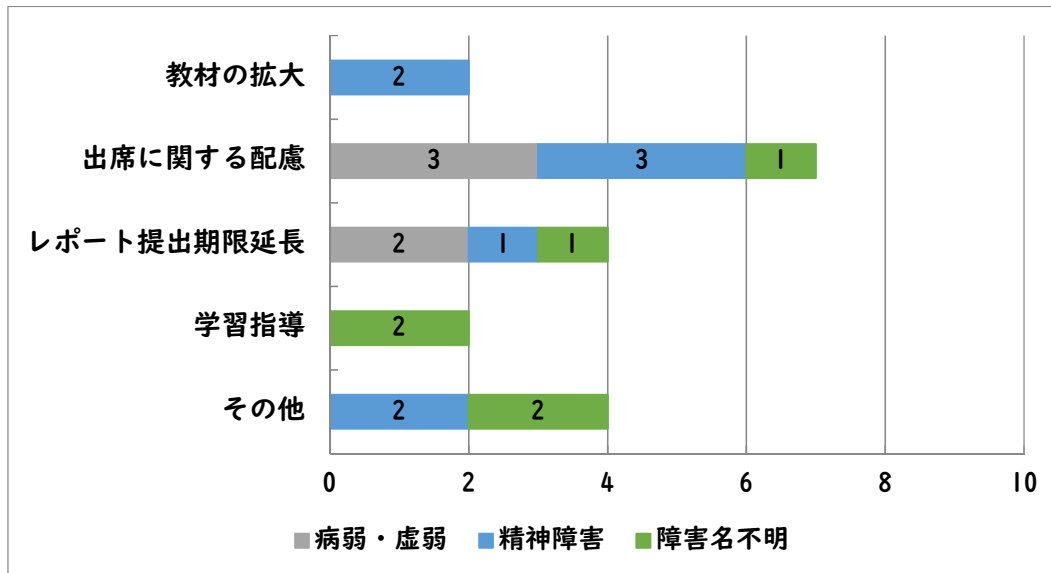


図4-5 それ以外の障害種の学生行った配慮

なお、すべての障害種における配慮の中で、「教材の拡大」が本学において最も件数が多かった。昨年度と比較すると、「ノート・PCテイク」の件数が減り、「出席に関する配慮」が増えた。

問② 障害学生支援センターが提供している支援（パソコンテイク、字幕挿入、情報提供等）は適切であったと思いますか。

上記について尋ねたところ、図4-6のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が27名、「少しそう思う」という回答が10名と、障害学生支援センターで行っている配慮に一定の評価が得られたと考えられる。その一方で、「あまりそう思わない」、「全くそう思わない」という回答もあったことから、授業担当教員との連絡を密に取りながら配慮を行う必要があると考えられる。

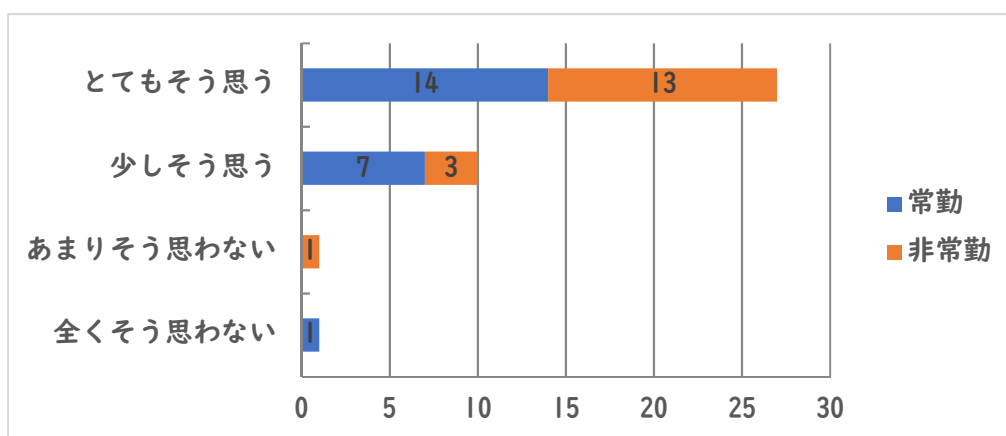


図4-6 障害学生支援センターが提供した支援は適切だったと思うか

問③ 障害のある学生への配慮は、授業の達成目標という観点から見て十分だと思いますか。

上記について尋ねたところ、図4-7のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」という回答が18名と最も多く、次いで「少しそう思う」という回答が17名であった。これらの結果から、障害学生支援センターで提供する配慮は、授業の目標を達成するために十分なものであったと考えられる。その一方で、自由記述からは限られた時間の中で配慮することの難しさを感じるという意見もみられた。

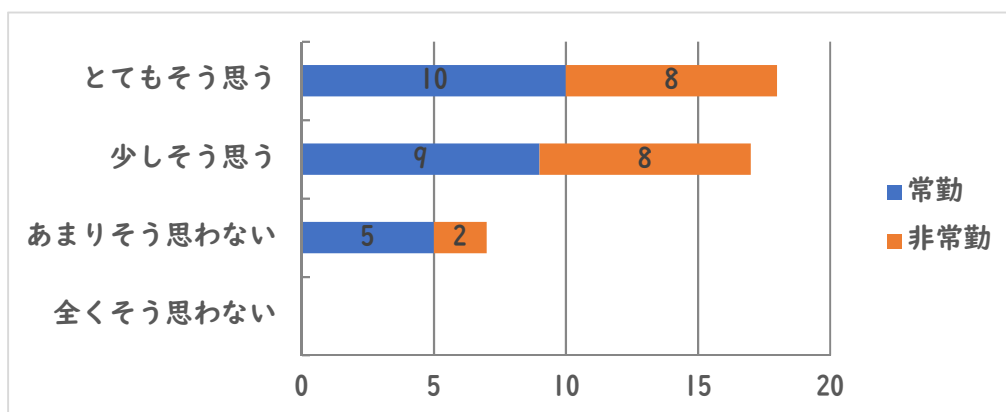


図4-7 障害学生への支援は授業の達成目標という観点から見て十分だと思うか

問④ 障害のある学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思いますか。

上記について尋ねたところ、図4-8のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」が10名、「少しそう思う」が20名であった一方、「あまりそう思わない」と回答した人数は10名、「全くそう思わない」と回答した人数は2名であった。

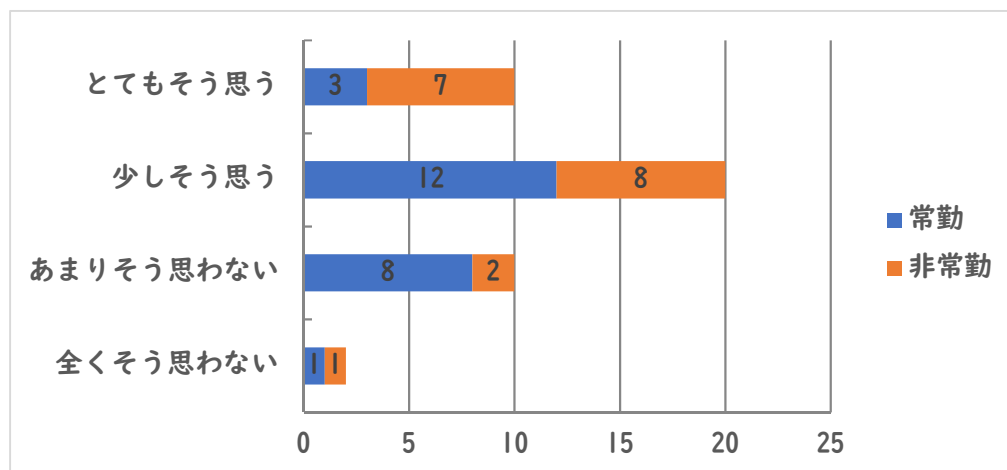


図4-8 障害学生に授業を行うことで、授業のユニバーサル化が進んだと思うか

問⑤ 障害のある学生へ授業を行っていくうえでFDが必要だと思いますか。

上記について尋ねたところ、図4-9のような結果が得られた。回答者全体では、「とてもそう思う」が17名、「少しそう思う」が19名であった。昨年度もFDの実施に対する要望が多かったこともあり、今年度教職員向けに研修会を実施したものの依然として高いニーズがあることが明らかとなった。

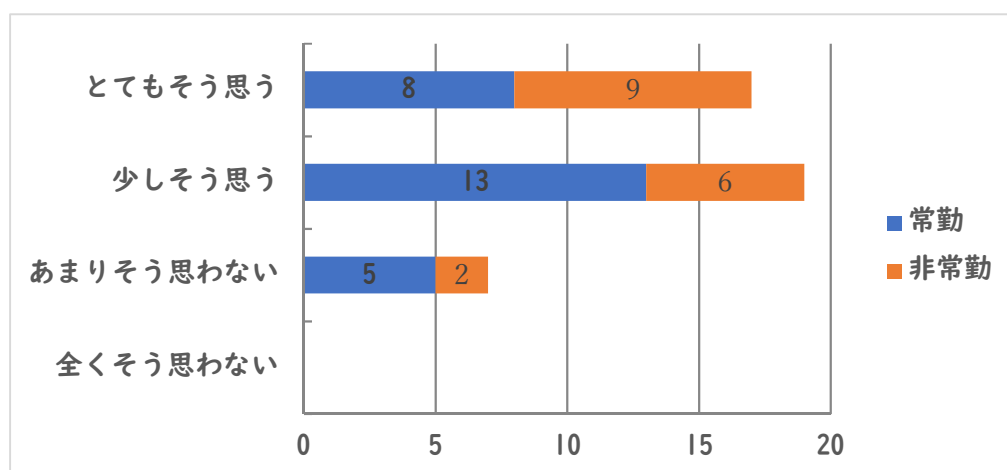


図4-9 障害学生に授業を行っていくうえで、FDが必要だと思うか

問⑥ 障害のある学生への支援を行うにあたってうまくいかなかった授業はありますか。

上記について尋ねたところ、図4-10のような結果が得られた。回答者全体でみると「毎回あった」が0名、「しばしばあった」が5名、「たまにあった」が18名、「全くなかった」が20名であった。授業を行うにあたってうまくいかないことがほとんどなかったと考えている授業担当教員がいる一方、うまくいかなかったと感じている教員も一定数存在した。このことから、障害学生支援センターと授業担当教員が密に連携を取りながら、配慮内容を検討していく必要性が示唆された。

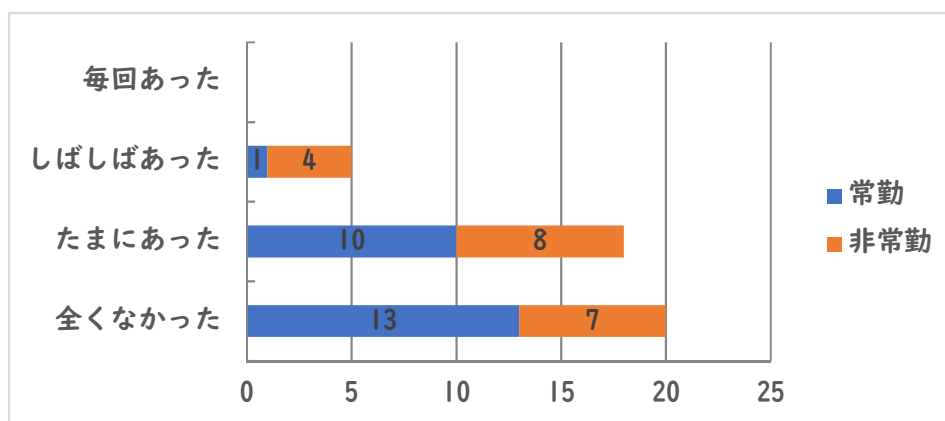
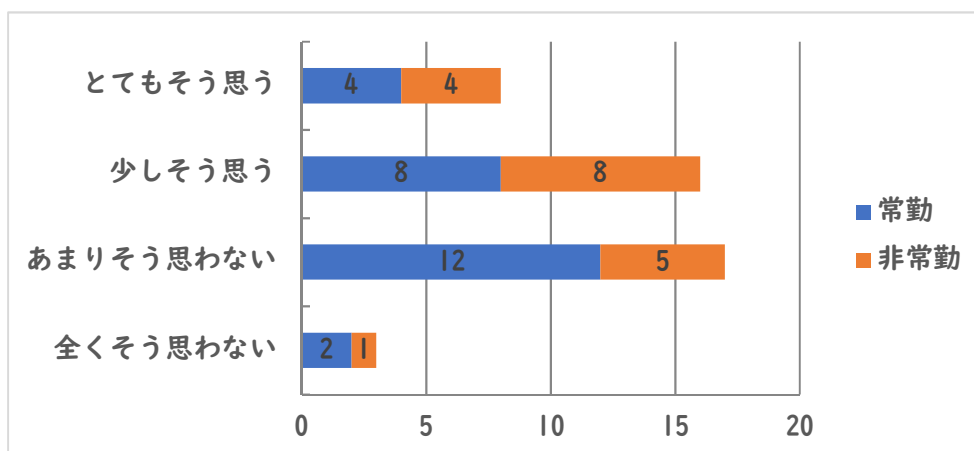


図4-10 障害学生の支援を行うにあたって、うまくいかなかった授業があったか

問⑦ 障害のある学生が自分の必要な配慮事項について、能動的に先生方に伝えたいと思いますか。

上記の問いに対して、図4-11のような結果が得られた。「とてもそう思う」が8名、「少しそう思う」が16名、「あまりそう思わない」が17名、「全くそう思わない」が3名であった。昨年度より、学生に対して授業の初回到配慮依頼文書を説明するよう指導を行っているものの、「あまりそう思わない」という回答が最も多く、意思表示のための支援の必要性が示唆された。



問4-11 障害学生が自分に必要な配慮事項を能動的に伝えていたか

問⑧ 障害学生支援センターより送付した、障害のある学生への配慮依頼文書は十分に理解されましたか。

上記について尋ねたところ、図4-12のような結果が得られた。「とてもそう思う」と回答した教員が21名、「少しそう思う」が20名であり、配慮依頼文書はおおむね理解されていた。しかし「あまりそう思わない(4名)」という回答も認められて、障害学生支援センターで発行しているミニガイドを参照していただくなど、文書による配慮依頼だけでなく、必要に応じて追加の説明を行う必要があると考えられる。

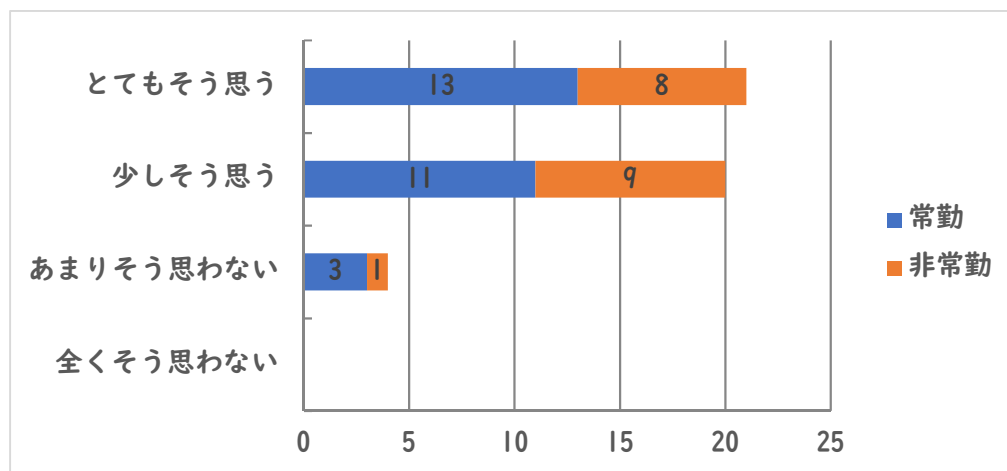


図4-12 配慮依頼文書は十分に理解できたか

本アンケート調査の結果をふまえて、支援方法に関する相談窓口を明確化するなど、授業担当教員と密な連携を図っていきたいと考える。また、授業担当教員に対して合理的配慮の内容を本人が説明するなど、意思表示のための支援も行っていく必要があると考えられる。さらに、聴覚障害の学生が今年度で卒業することもあり、PC テイクのスキルを次世代につなぐ取り組みなどが求められる。

## 5. 障害学生支援センター 平成30年度スケジュール

平成30年4月～平成31年3月

平成30年		前期授業配慮願い作成・提出
4月	4日	入学式にて 手話通訳（福岡県手話の会連合会）、PCテイカー（支援学生）派遣 オリエンテーション期間（新入生サポート対応・支援学生募集） オリエンテーションにてPCテイカー（支援学生）派遣
6月	17・18日	全国高等教育障害学生支援協議会 第4回大会（参加：職員1名）
7月	21日	オープンキャンパス 支援学生4名派遣
	25～28日	第40回国際学校心理学会（ポスター発表：教員2名）
8月		九州の公立小学校に障害学生修学支援ミニガイドー教育実習のサポートマニュアルーを配布
9月		附属中学校での教育実習の際にPCテイカー（支援学生）派遣（15日間各3名）
	14・15日	第67回九州地区大学教育研究協議会（口頭発表：職員1名）
10月	4日	平成30年度福岡教育大学第2回人権教育推進研修会（講演：教員1名）
	27・28日	第14回PEPNet-Japan 日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム（参加：職員1名、学生3名）
12月	16日	日本発達障害支援システム学会第17回研究大会（ポスター発表：教員2名）
平成31年		
1月	31日	他大学の講演会へのPCテイカー派遣および交流会（参加：職員1名、学生3名）
2月	8日	九州・沖縄地区連絡協議会（参加：教職員2名）
	19日	九州地区国立大学法人障害者支援に関する大学間連携プログラム（本学主催、講演：職員1名） 「障害学生支援に関する授業担当教員アンケート調査」実施
3月	25日	卒業式にて 手話通訳（福岡県手話の会連合会）、PCテイカー（支援学生）派遣